

様式 4

<p style="text-align: center;"><b>令和 6 年度第 2 回</b></p> <p style="text-align: center;"><b>富士見市図書館協議会</b></p> <p style="text-align: center;"><b>議事録</b></p>						
<b>日 時</b>	令和 6 年 9 月 2 0 日 (金)		開会	午前 1 0 時 0 0 分		
			閉会	午前 1 1 時 4 0 分		
<b>場 所</b>	中央図書館 レセプションルーム					
<b>出 席 者</b>	委 員	出井委員長	檜山副委員長	小林委員	金高委員	今井委員
		○	○	○	○	○
		神馬委員	本木委員	野澤委員	金子委員	渡邊委員
		○	○	○	○	○
	事務局	○教育委員会生涯学習課 岡 課長 森田主査 清水主任  ○図書館 長谷川中央館館長 田畑副館長 大里鶴瀬西分館長 下川ふじみ野分館長				
<b>公 開 ・ 非 公 開</b>	公開 (傍聴者 0 名)					
<b>次 第</b>	1. 開会 2. 各館事業報告 令和 6 年度 6 ~ 8 月 (中央・鶴瀬西・ふじみ野) 3. 「地域資料の電子化」について 4. その他 (次回開催日程) 5. 閉会					
<b>配 布 資 料</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富士見市図書館協議会 令和 6 年度 9 月定例会次第</li> <li>・ 令和 6 年度 6 ~ 8 月活動報告 (中央・鶴瀬西・ふじみ野分館)</li> <li>・ 「さざなみだより」 2 0 2 4 年 8 ・ 9 ・ 1 0 月</li> <li>・ 「つるせにししんぶん」 2 0 2 4 年 8 ・ 9 月号</li> <li>・ 「ぶんちゃんしんぶん」 2 0 2 4 年 8 ・ 9 月号</li> <li>・ 「富士見市の公共施設」「図書館要覧 令和 5 年度」</li> <li>・ 「鶴瀬地区の遺跡」チラシ</li> </ul>					

## 議 事 内 容

図書館

### 1. 開会

委員長

開会あいさつ

### 2. 各館事業報告（令和6年度6～8月）

図書館

#### 【中央図書館】

令和6年6・7・8月の活動報告は、報告書どおりである。  
この時期は夏休みが入るので、いろんなイベントがあった。  
6・7・8月のミニコンサートはすっかり定着したようで、毎回お越しいただく方もいる。

「世界禁煙デー・食育」に関する展示は、富士見市健康増進センターとのコラボ企画で行った。

人気の「夏休み工作会 無限キューブを作ってみよう！」は、早々に申し込みが終了。参加された方には楽しんでいただけた。

毎年恒例の「こわ～いおはなし会」の第1部は図書館スタッフによる手遊び、紙芝居、パネルシアターなど行い、最後にみんなでビニールでお化けを作っておみやげにした。第2部のボランティアサークル「すぷんふる」の素話は観客がとても少なくなってしまった。お話の内容を子どもでも知っているようなものに変更したほうが良いのかもしれないという課題が残った。

これも毎年恒例の「めざせ！キッズライブラリアン 子ども司書講座」は、初めて電子図書館を取り入れたが、ネットの繋がりが良くなかったり、6人で3台のタブレットでは半分の子が手持ちぶさたになってしまったりした。来年への課題としたい。

ここで、5月の協議会の議題であった「宅配サービスの対象者の条件変更」について報告する。

宅配サービスの登録者が伸び悩んでおり、この解決には登録条件を変えた方が良いのでは、という意見があり、協議会の皆さんからいただいたご意見を、障がい者サービス担当に持ち帰り検討してもらった。

まず利用対象者の追加として：①「介護者（家族）」と②「図書館に来館することが困難な高齢者の方」の二つも追加して良いのではという意見が上がった。

しかし、①の介護者の家族であるが、家族一人で対象者を見ている世帯も有れば、家族全員で見ている世帯もあり、どこまで家族の範囲を広げるのか。また万が一、介護が終了したときの判断も難しいこと。

	<p>②はやはり「高齢者」の線引きが難しく、また‘困難’の内容が、けがや病気で短期的なものなのか、それとも病気等で長期なものなのかの判断も難しい為、この二つの追加は取りやめになった。</p> <p>次に、利用条件の変更：現在宅配サービスで提供している資料は、予約の入っていない、棚に並んでいるもののみであるが、これを予約の入っているものに変更できないか→これは特に問題もなく可能という事で、条件を変更し進めようとしていたが、5月の協議会以降、新たに2名の登録者、1名の問合せを受け、現在10名の登録者となり、配送の手配などが急に忙しくなり、とりあえずこのままの条件で行っていくことになった。</p>
	<p><b>【質疑応答】</b></p>
委員	夏休み工作会の報告書に図書館側が「図書館の思いを話した」とあるが、どういうことか？
図書館	学校にも家庭にも居場所がない子どもたちに、ぜひ居場所として図書館に来て欲しいと、図書館のスタッフはみんな思っているよ、という事を伝えることが出来た。という意味である。
委員	宅配サービスの件で、「10名の対応に追われている」とは、どういうことか。障がい者サービスのスタッフが対応に追われているのか。
図書館	宅配サービスの方への配送は、公共配送、保育園への団体貸出の隙間の時間に、配送の方をお願いして行ってもらっているが、こちらの都合と相手の都合がなかなか合わない時もあり、そういう意味での「追われている」である。
委員	先ほど館内を見てきたときに気づいたが、こども司書講座の時に作ったであろうPOPだが、全体的に内容に踏み込まれていないものが多く見受けられた。次回そういった点についても指導すると良いと思う。
図書館	担当部署に伝える。
	<p><b>【鶴瀬西分館】</b></p>
図書館	事業報告は、報告書のとおりである。
	<p>自主事業について報告する。「読書感想文の書き方ワークショップ」は6～8の3カ月にわたって行った。</p> <p>6月は大人が対象。講師が親や教育関係者への専門のプログラムを組んでくれた。アドバイスの1つとして、絵をよく見てというものがあつたが、参加者の感想としては、大人になっていつの間にか絵をよく見なくなっていたというのが印象的だった。</p>

「関沢児童館コラボ 一緒にあそぼう」は、つるせ台小学校の生徒で、関沢児童館に登録をしている子が多いことから始めた企画である。児童館とビンゴカードを作成し、期間中どちらの施設でも参加可能とした。おたがい少し距離があるのが難点だが、地域の施設として両方使えるよう、今後も定着させていきたい。

「西ちゃんクリアファイル」は、YA サポーターの活動から生まれた企画である。とてもきれいに出来上がった。館内で販売している。

7月の「読書感想文の書き方ワークショップ」対象の1年生は保護者同伴で、1年生にとっては初めての夏休みとなるのだが、今年はお父さんの参加が多かった。

2～4年生は子どもだけの参加である。自分で読む本を持ってきたが変更する子も多く、そういった子にはたくさんのブックリストを渡して、多くの本に接してもらおう機会を作った。

「スペシャルおはなしかい・いちぶえいご・好きな本よんであげます」は、いつものスペシャルおはなし会にプラスして夏休みの比較的時間があるときを使い、子どもの好きな本を日本語英語とも子どもと一緒に読んだ。参加者は少なかったが、新規におはなしかいを知ってくれた方もいたので、これからも続けたい。

「調べる学習 サマーバック」は、調べる学習のアプローチのお手伝いになるものを用意した。レジメなども入れて、利用者のブラウジング（棚を見る）のみでは出合いにくい本と利用者を繋げた。

7月の学校連携は、つるせ台小学校、鶴瀬小学校、関沢小学校の1年生を対象に、カードを作り、初めて図書館に来た子たちに図書館での本の借り方や、図書館の使い方、利用案内などをして、読み聞かせ&ストーリーテリング&ブックトークを行った。ボランティアサークル「すぷんふる」と共同で行った。夏休みに沢山本を読んでもらいたい。

「YA 工作講座クリアビュー★スケルトン貯金箱」は参加者が多かったため、YA サポーターも6人ほど来てくれ、細かく指導してくれた。小さい学年では組み立てが少し難しかった児童もいたが、参加者全員完成した。

夏のガチャ企画「としよかんクエスト2」はカウンターで行っている。図書館の使い方やルール等をゲーム方式で答えて、クリアしたらガチャを回すことが出来るものである。この企画は、自らやりたい！とカウンターに申し出しないと行えない。カウンターの敷居を下げる目的もある。

「科学講座 360度カメラとあそぼう！」は企業とコラボした企画である。自分を起点に全周が撮影できるカメラのしくみの説明を

	<p>聞いた後で、カメラを使用してもらった。360度カメラはとても処理速度が速い最新のもので、みんな興味を示していた。</p> <p>8月の「読書感想文の書き方ワークショップ」2回目は、1回目に参加し、先生から宿題の出た参加者が仕上げたものに先生が指導をした。よりよいものが出来上がった。</p> <p><b>【質疑応答】</b></p>
委員	クリアファイルの売り上げの収益の使い道は？西分館の修繕などに使用されるのか。
図書館	指定管理の売り上げで計上している。
委員	YAサポーターのとの連携が素晴らしい。また「読書感想文の書き方ワークショップ」に2回目があって、フォローしているのがとても良いと思う。
	<p>ただ気になるのが、調べる学習用に作成した「サマーバック」である。</p> <p>テーマの決まっている子にとってはとても良い企画であるが、まだテーマの決まっていない、図書館の棚を見ながら決めようとぼんやりイメージしている子にとっては、その分野の本がごっそりないのはどうだろうと不安に思う。</p>
図書館	同じテーマでも各学年用で本が違う。テーマは、各学年同じではない。また館内にはさまざまな本があり、また透明なバックに入れて並んでいるので、その本が読みたい子にはもちろん貸出しするので、大丈夫である。
図書館	自分で選んで、すぐに本を決められる子もいれば、時間がかかっても探せない、決められない子もいる。そういう子に本を探すきっかけを作っていると認識している。
委員	夏休みなので子ども向けのイベントが多いが、一般の企画が少ないように思う。西分館は大人の利用者も多いので、大人向けの企画もあっても良いと思うが。
図書館	今日お配りした資料の中に「鶴瀬地区の遺跡」のチラシがあるが、これは西分館で初めて行う歴史講座である。10月にも大人向けの企画がある。たまに子ども向けのイベントに大人が参加を希望する事もあり、今後対象を広げても良いのか考えることがある。
図書館	<b>【ふじみ野分館】</b>

「ぶんちゃんひろば6月」は、幼児・小学生を対象にした「障がいってなに？ポッチャを通して知ろう！」を行った。

富士見市社会福祉協議会と多機能型事業所え〜るの協力をいただき、障がいのある方と一緒にポッチャを体験する機会を作った。え〜るから、車椅子を利用している方にも来ていただいた。

あまり集客には結びつかなかったが、今後もこういった催しを通して、障がいについて考えてみる発信をしていけたらと思う。

7月の「ぶんちゃんひろば」は、勝瀬中学校とのコラボで科学教室を開催した。人数が多かったため、いつもより広い多目的ホールで行った

(1)サイフォンの原理を使って、水を持ち上げるもの

こちらは難しくて、戸惑う子も多かったが、科学部の生徒が丁寧に教えていた。

(2)水に浮かぶ絵は、わかりやすくまた驚きも大きく、子どもたちの成功体験に繋がった。

8月の「ぶんちゃんひろば」は、県政出前講座で、「考えてみよう！海洋プラスチックごみ問題」を行った。プラスチックごみで海が汚染されているショッキングな事実を、写真などで説明いただいた。小さな子供には難しかったかもしれないが、知ってもらい、聞いてもらうことが大事だと思う。講座の後半はスタッフが『イチからつくるプラスチック』（岩田 忠久／編，内田 かずひろ／絵 農山漁村文化協会）を参考に、牛乳から作る生分解性プラスチックをつくる実験をした。代替プラスチックとしてこのようなものもあることを知ってもらい機会となった。また海洋プラスチックごみ問題は大人にも関心を持ってもらいたく、一般向けに展示も行った。

「整理収納講座 キッチン収納編」を昨年に引き続き行った。講師は弊社 TRC のスタッフであり資料の貸出促進をはかるべく、関連本の紹介をたくさんしてくれ、参加者の方に資料をたくさん借りていただくことができた。

「ハーブ&アロマ講座」こちらも昨年に引き続いての人気イベントである。夏に向けてハーブで虫よけスプレーと虫さされクリームを手作りするもので、こちらも人気の講座であった。

以降、子ども向け

「エアロボックス」年4回開催のうち2回目の開催をした。親子でスキップを楽しんでもらう企画。

参加された皆さんは、とても楽しそうにされていた。

夏休み科学講座「電気を通すもの、通さないもの」対象が小学2年～6年。テスターを作ったので、講座内で終わらせず、自宅でも実験できるような内容となっている。

「押し本のPOPを作ろう～勝瀬中学校生徒がコツを伝授！」今年度は事前に勝瀬中学校のPOP作品をふじみ野小学校と勝瀬小学校

にポスターとともに掲示した。それを見て参加した子もいた。小学生が持って来た本の、どういうところをPOPに落とし込めるかアドバイスしながらすすめた。また地域の小学生と中学生が同じ活動をする良い場にもなった。

「ぬいぐるみおとまりかい」毎年恒例の人気行事である。リピーターの方もいらっしやった。アルバムはお母さんたちにも評判が良かった。スタッフもやりがいを感じたイベントであった。

「わくわくスタンプラリー」夏休みに図書館に来てもらい、読書活動を行ってもらう目的。スタンプを20個集めると、景品がもらえるというもの。楽しんで集めてもらうように集め方をいろいろ考えた。延べ300人が参加した。

「ビブリオバトルデモンストレーション」と「ビブリオバトルワークショップ」をふじみ野小学校5年生に協力いただき、9月の「勝瀬 de 縁日」で行われるミニビブリオバトルへの参加のために行った。ワークショップは子どもたちがグループになりコミュニケーションを取りながら、フォローやお互い協力し合っていたのがとても印象的だった。

勝瀬 de 縁日でのミニビブリオバトル当日は、ふじみ野小学校と勝瀬小学校からバトラーが4名発表してくれた。地域の大人に見守ってもらい、温かい会場となった。今後も地域全体で読書活動推進が出来たらと思う。

「ふじみ野児童館小学生向け連携事業 夏休み課題図書ブックトーク」

今年は昨年よりも多く、保護者の方にも参加していただいた。こういう機会を大事に読書推進のアピールをして行きたい。

#### 【質疑応答】

委員長

「ボッチャをやってみよう」今回は参加者が少なかったようだが、今後も続けていくのか？

図書館

障がいのある当事者の方と一緒に活動出来る機会は大事。ボッチャに限らず、障がい者を理解する機会があればこれからも探っていきたい。

委員

参加者の数ではなく、とてもよい機会だったと思う。今後も試行錯誤しながら、こういう試みを続けて欲しいと思う。

委員

まず感想を。アンケートに、「この講座を何で知ったか」という質問に、「分館内でのお知らせを見て」が多い。来館者は何か楽しいことはないかな？と図書館に来館するのだと思う。とても良いことだと思う。

	次に、質問。「推しの POP を作ろう」だけ、学校でチラシを配ったようだが、このイベントだけ学校でチラシを配った理由を教えてください。
図書館	勝瀬中学校の生徒が先生役をやってくれるので、地域の勝瀬小学校とふじみ野小学校の児童の4～6年生に配った。子ども読書コンクールの募集もあったので、それにも絡めた。
委員	「このイベントを何で知ったか」という質問に、やはり広報富士見など紙媒体のものが多く、各館の広報誌はどれくらい発行されているのか？それは全て持ち帰られているのか？
図書館	ふじみ野分館については、館内に置いてはいるが、それほど持ち帰る方は多くはない。内容が絵本の紹介が多いのでふじみ野保育園と慶櫻ふじみ保育園全世帯に配布している。
図書館	西分館も、館内についてはそれほど出ない。子ども向けブックリストについては、保育園などに個配という形で進めている。学校にはクラスごとに掲示してもらっている。
図書館	中央館も、毎月数種発行しているが、それほどは持ち帰られない。
委員	「富士見市第4次こども読書計画」に「ビブリオバトルの実施」があり、ふじみ野分館は行っているが、ほかの2館の予定はあるのか。
図書館	検討します（2館）
委員	3館ともそれぞれ工夫をされたイベントを行っていて素晴らしいと思うが、それほど多くない人員で、これだけのことを行うのは大変だと思う。たとえば、もう止めたいが、通年行っているのではやめられないイベントなどあるのではないかと。また、これをやめてこちらに時間を割きたいとかそういった思いなどないのか？
委員長	館長はどう感じているのか？
図書館	図書館のイベントは指定管理5年の計画に則って行っている。その中で結果を出していかないといけない。長い期間行っていると振り返り、今後集客に効果のないイベントを精査したりする必要があるかもしれない。
委員長	生涯学習課も尽力して欲しい。チラシの「鶴瀬地域の遺跡」について教えてください。

図書館	鶴瀬西地域には資料館が無いので、西分館でこういう講義をさせてもらうことになった。せっかくなので一から学ぼうということで縄文時代にした。
図書館	鶴瀬西地区には図書館も西分館だけ。難波田資料館も、水子貝塚資料館も、東地区にある。なので、西分館は資料館的役割も果たしていかなければいけないと考えている。西地区からも文化財が出土していることを皆さんに知って欲しくて開催した。
図書館	<p><b>3. 議題「地域資料の電子化について」</b></p> <p>電子図書館の利用者がなかなか伸びない現状がある。電子図書館のコンテンツには、継続して使えるものと、2年でライセンスが切れるものがある。予算も限られている中で、どう利用してもらえるか考えている。そこで今回、富士見市のマスコットキャラクター「ふわっぴー」の絵本を、電子図書館でログインなしで見られるようしている。7/12の掲載以降198回の閲覧回数（R6.9.20現在）をいただいている。</p> <p>先日、市議会の質問で「ふわっぴー」の絵本を増刷してはどうかという意見が出たが、あれは市制50周年記念のために作ったものであるので増刷の予定はない、電子図書館で見られるので見て欲しいと言っていた。</p> <p>また、「富士見市お散歩マップ」という、地域活性化研究会から出版されているものが3部あり、それも電子図書館に上げている。いちばん閲覧されているのが「水谷・みずほ台地区」で39回。次が「鶴瀬地区」で38回カウントされている。地図を持ち歩かなくてもタブレット等で活用していただけるので、今後、活用が増えるかと思う。</p> <p>図書館では郷土資料のデジタル化も検討している。地域資料や独自資料など、著作権の問題が無いもの、たとえば富士見市の昔話の絵本などは電子化しやすい。</p> <p>そこで、今後こんなものが電子図書になったらいいなと思う地域資料があれば教えて欲しい。</p>
委員	電子図書館を見たことないので、今お知らせいただいた「ふわっぴー」も「お散歩マップ」も見えていない。次回まで見てくるので、その後意見も伝えてもいいか。
図書館	「ふわっぴー」の絵本と、お散歩マップは、富士見市のシティプロモーション課から話をいただいた。その他の資料になると、調整が

	<p>難しいところもあるが、電子図書館やまたデジタルアーカイブに富士見市で出土された土器などもあげて、市民の方に知ってもらうのも図書館の役割なのかとも思う。</p>
委員	<p>著作権の問題とは、そもそも市の発行物だからできるということか。</p>
図書館	<p>市の発行物だからと言って、すべてができるわけではない。 「ふわっぴー」の絵本も「お散歩マップ」も一度見ていただきたい。</p>
委員	<p>上福岡市の古い市報に市の歴史をまとめたものが載っていた。そういうものが富士見市にはないのか。もしあればそういうものを電子化すると、きっと楽しい物が出来ると思う。</p>
委員	<p>「富士見ふるさと巡り」は市のものではないから、電子化に問題があるのかもしれない。難波田城資料館などの資料にもいい物があるのかもしれない。</p>
図書館	<p>電子化で問題になるのは、データをどこが持っているのかである。  デジタルアーカイブといって、本を1冊ばらばらにして撮影することも複本があればできなくもない。</p>
委員長	<p>ではこの議題を次回も継続する。 次回、こんなものが電子図書になったらいいなと思う地域資料があれば教えて欲しい。</p> <p><b>4. その他（次回開催日決定）</b></p> <p>次回開催日 12月13日（金）に決定。</p> <p><b>5. 閉会</b></p>